解析を，モデル生物として分裂酵母を用いて行ってきた。これらの因子は酵母からヒトまで種を越えて保存されていることから，今後はこのモデル生物を用いた研究をヒトの癌の病因の解析に応用していきたいと考えている。

62. アンケート調査からみた教室および関連施設の胃癌治療の現況

鈴木孝雄，落合武徳（千大）

胃癌切除例の治療成績に関して教室および関連施設にアンケート調査をしたところ，次の結果を得た。(1)手術の安全性を示す直死率はほぼ満足の得られる成績であったが，胃癌再燃死が含まれる在院死率では施設間格差が見られた。(2)進行程度別に見た予後は良好であり，今後，術式に関する共同研究を積極的に進めてゆきたい。

63. 当センターにおける胃癌治療

永田松夫，渡辺一男，山本　宏
田崎健太郎，当間雄之
（県がんセンター）

過去10年間の1666例について前半と後半に分けて，切除法をみると，後半に噴門側切除，EMR が増加傾向を示した。再建法では，Jejunal Pouch Interposition を用いる例が見られるようになってきた。手術の多くは，研修医が術者で，胃専門医が前立ちを行っている。術後の縫合不全1.9%，狭窄1.5%で，イレウス1.5%で，各 stage の5生率はほぼ満足できるものであった。病理，診断部などとの合同カンファレンスによる症例検討についても紹介した。

64. 当院における胃癌治療

保元明彦，尾崎正彦，有我隆光
大島郁也，木下弘寿，吉村清司
庄古知久，篠藤浩一，河野世章
中嶌和恵　（横浜労災）

当院開院時から1999年12月までに経験した胃癌手術症例は695例であった。胃癌の術式別では MRB1 332例，B2 118例，胃全摘201例などであり，stage 別の5年生存率は Ia 98.4%，Ib 89.6%，II 73.2%，IIIa 42.8%，IIIb 24.3%，IV 8.2%であった。術後補助化学療法の成績では低分化型においてIIIaでMTx/5FU 群の生存率が高かった。

65. 当センターにおける胃癌症例の検討

松崎弘志，渡辺義二，丸山尚嗣
田中　元，竹田明彦，夏目俊之
坂間淳孝，唐司則之，佐藤裕俊
（船橋医療センター）

1990年1月から99年12月までに当科に入院した胃癌症例は917例であり，男女比は約2：1，平均年齢は60代前半であった。EMRを含む非手術例は57例，手術例は860例であり，切除817例，非切除43例で，切除率は95%であった。切除例中，在院死は28例，在院死率は3.4%であった。Stage 別5年生存率は，Stage Ia が100%，Ib は94.8%，II は78.0%と良好であったが，IIIa 39.7%，IIIb 23.2%と低下し，IVa は12.6%，IVb は4.9%と予後不良であった。

66. 当院における胃癌

坂田治人，植松武史，一瀬雅典
望月亮祐，深澤公昭，向井　稔
（塩谷総合）

目的：当院の胃癌治療成績を検討する。対象と方法：1995年11月～1999年11月の胃癌症例178例のStage別生存率，手術根治度，再発形式，化学療法施行例（少量FP 療法）の生存率を比較検討した。結果：手術例144例の Stage 別3年生存率はそれぞれ100%，81%，72.7%，37.8%，27.3%，16.0%，0%であった。再発例は腹膜播種が55.4%認められた。Stage 3，4症例において化学療法が予後を向上することが示唆された。

67. 当院における胃癌治療成績

白鳥　亭，山本義一，高石　聡
所　義治，有馬秀明，久保嶋麻里
新田正明，関　幸雄（川鉄千葉）

1990年から1999年までの当院の胃癌症例494例について検討した。手術施行例428例のうち切除例は388例で，手術成績は，直死3例，入院死1例，在院死は4例，1.03%であった。5年生存率はstage I（237例）97.5%，stage II（47例）74.8%，stageIII（71例）19.8%，stageIV（33例）13.3%であった。再発は根治度A，Bの346症例で19.1%にみられた。

68. 胃癌症例の検討　―地域病院のストラテジー―

今園　修，竜　崇正，岡田　正
趙　明浩，石川千佳（県立佐原）

1990年～1999年の stageIV胃癌手術58症例を，腹膜転移（P），肝転移（H），遠隔転移の無い（P－，H－）